

職業実践専門課程等の基本情報について

| | | | | | | | |
|---|---|--|-------------------------------------|----------------|---|--------------|--------------|
| 学校名 | | 設置認可年月日 | 校長名 | | 所在地 | | |
| 清風情報工科学院 | | 昭和63年3月11日 | 平岡 憲人 | | 〒 545-0042 (住所) 大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号 (電話) 066572369 | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | 代表者名 | | 所在地 | | |
| 学校法人清風育社 | | 昭和63年3月11日 | 理事長 平岡 龍人 | | 〒 545-0042 (住所) 大阪市阿倍野区丸山通1丁目6番3号 (電話) 06-6657-2369 | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士認定年度 | 高度専門士認定年度 | 職業実践専門課程認定年度 | | |
| 工業 | 工業専門課程 | グローバルIT学科(2年制) | 令和3(2021)年度 | - | - | | |
| 学科の目的 | 日本の少子高齢化が進み、若手労働者の不足が顕在化している現状において、留学生の就労を希望する企業に向けて、「必要な情報処理技能」の習得に加えて、日本の伝統、文化を身に付けた「社会から安心され、信頼され、尊敬される」留学生を育成することを目指しています。 | | | | | | |
| 学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等) | IT業界に就職を希望される学生に必要な知識の習得と就職に必要なビジネス日本語の習得からIT業界に即戦力で活躍できる人材を育成します。 取得可能資格(J検2級・日本語能力試験N1)取得可能言語(Java・Python・HTML/CSS・SQL) 中退率(0.95%) | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 2年 | 昼間 | ※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 単位 | 1,064 単位時間 単位 | 144 単位時間 単位 | 800 単位時間 単位 | 0 単位時間 単位 | 0 単位時間 単位 |
| 生徒総定員 | 生徒実員(A) | 留学生数(生徒実員の内数)(B) | 留学生割合(B/A) | 中退率 | | | |
| 80人 | 49人 | 48人 | 1% | 0% | | | |
| 就職等の状況 | ■卒業者数(C) | | 21人 | | | | |
| | ■就職希望者数(D) | | 15人 | | | | |
| | ■就職者数(E) | | 14人 | | | | |
| | ■地元就職者数(F) | | 0人 | | | | |
| | ■就職率(E/D) | | 93% | | | | |
| | ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) | | 0% | | | | |
| | ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) | | 66% | | | | |
| | ■進学者数 | | 3人 | | | | |
| | ■その他 | | | | | | |
| | 就職活動継続 | | : 1人 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報) | | | | |
| ■主な就職先、業界等 | | (令和5年度卒業生) 東邦レオ株式会社、株式会社ギガ・システム、株式会社ビーネックステクノロジー等 | | | | | |
| 第三者による学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 | | 無 | | | | |
| 当該学科のホームページURL | https://i-seifu.jp/i-seifu_navi/information/ | | | | | | |
| 企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入) | (A: 単位時間による算定) | | | | | | |
| | 総授業時数 | | 1,700 単位時間 | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数 | | 375 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の授業時数 | | 0 単位時間 | | | | | |
| うち必修授業時数 | | 225 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数 | | 225 単位時間 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の授業時数 | | 0 単位時間 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの授業時数) | | 0 単位時間 | | | | | |
| (B: 単位数による算定) | | | | | | | |
| 総単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した演習の単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| うち必修単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| うち企業等と連携した必修の演習の単位数 | | 0 単位 | | | | | |
| (うち企業等と連携したインターンシップの単位数) | | 0 単位 | | | | | |
| 教員の属性(専任教員について記入) | ① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号) | | 0人 | | | | |
| | ② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号) | | 2人 | | | | |
| | ③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号) | | 0人 | | | | |
| | ④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号) | | 1人 | | | | |
| | ⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号) | | 0人 | | | | |
| | 計 | | 3人 | | | | |
| 上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 | | 0人 | | | | | |

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

日本のみならず海外と精通した先端企業及び職業人育成に取り組まれている企業人の意見・情報を取り入れ、IT分野の専門的かつ実践的な職業教育を行うことで、学生及び教員に「社会の先端分野におり、世界に伍して競っていく」という気概を養成する。そのため、企業人による授業の実施や企業現場から求められる学修項目を授業や演習に取り入れる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は重点を置くべき技術と企業人としての心構えの見極めや、授業内容・方法の改善・工夫等について審議し決定する。

分野に関連する企業等のほか、校長・副校長・学科長を委員として、学内の委員が主体的に運営し、校長の許可を得て意思決定する。組織のうえでは校長直轄とし、この委員会の意思決定により教育課程が編成される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|--|------------------------|----|
| 竹居 直哉 | 株式会社Takei Design & Technologies 代表取締役 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | ③ |
| 川崎 照文 | 株式会社ギガ・システム 人事部新入社員トレーナー | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | ③ |
| 柴田 貴夫 | 株式会社ダイナスタイル 代表取締役 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | ③ |
| 木本 圭一 | 関西学院大学 関西ベンチャー学会 理事 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | ② |
| 平岡 龍人 | 学校法人清風明育社 清風情報工科学院 理事長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | — |
| 平岡 憲人 | 学校法人清風明育社 清風情報工科学院 校長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | — |
| 福原 洋 | 学校法人清風明育社 清風情報工科学院 副校長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | — |
| 土屋 理恵 | 学校法人清風明育社 清風情報工科学院 副校長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | — |

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(4月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年4月1日 10:00～12:00

第2回 令和5年8月25日 15:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

令和4年12月実施の教育課程編成委員会において、企業の求める外国人材に関して技術・知識・業界動向をふまえて2年間の具体的カリキュラムに落とし込んだ。また即戦力としての業界就職に向けて授業内容と学校サポート体制を継続的に改革中である。具体的には、従来プログラミング言語は1年前期でCoffeeScriptをCodeMonkeyにて学び、そこからPythonへという流れを作っていた。一方で、企業現場でAndroidのアプリおよびサーバーでのJava利用があり、2年生はPythonとJavaと2言語選択制とした。しかし、専門学校卒業生に対しPythonの業務は少ないことが分かり、当面Javaを中心にしようということとなった。また、10月に実施した「内定率を上げる面接対策」研修をふまえて面接指導のやり方をより企業の現場に近づける事とした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

グローバルIT学科のシステム技術の習得目標は、企業で開発シェアの高いWEBアプリケーションの基礎の習得とする。この中で、サーバーサイドのアプリケーションがSQLサーバーと連動して動作する部分について、企業講師による実習を実施する。授業に当たっては、技術の伝授だけでなく、技術力・日本語力・心構えの3面について、企業の採用基準を教育する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ・企業から講師を招聘して、先端技術へキャッチアップするもの
- ・企業の行うセミナーに学生が参加し、先端技術へキャッチアップし同時に同世代のライバルと競い合う
- ・企業とタイアップしたコンテストに応募し、全国・全世界の同世代のライバルと競い合う
- ・企業から課題・業務をもらい、学生の作品に評価を受ける
- ・企業にインターンとして派遣し、指導をいただき刺激を受ける

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 企業連携の方法 | 科目概要 | 連携企業等 |
|-------------------------|---------------------------|---|---------------------------------|
| プログラミング基礎 | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 「Java」をマスターするために必要とされる関数の基礎を使ってプログラミングをする | 株式会社Takei Design & Technologies |
| AI/IOT基礎(プログラミングPython) | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 基本的なPython知識を身に着ける。Pythonでゲームを作りプレゼンする。 | 株式会社Takei Design & Technologies |
| プログラム応用(Javaプログラミング) | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | 開発環境構築・2次元配列の作り方とデータへのアクセス方法を学ぶ | 株式会社Takei Design & Technologies |
| システム開発(Java) | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | Javaによるシステム構築システム構築・設計・実装の経験をするとともにプレゼンテーション力の向上を目指す。 | 株式会社Takei Design & Technologies |
| DataBASE基礎(データベース) | 1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当 | データベースについての理解・SQLを使ったリレーショナルデータベースの取り扱いについて学ぶ | 株式会社ギガ・システム |

| | |
|--|-----------------------|
| 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係 | |
| (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 先端企業および職業人育成に取り込まれている企業人の意見・情報を取り入れ、IT分野の専門的かつ実践的な職業教育を行うことで、教員に「社会の先端分野におり、世界に伍して競ってゆく」という気概を育成する。就業規則36条及び教員研修規定の定めにより実行する。 | |
| (2) 研修等の実績 | |
| ① 専攻分野における実務に関する研修等 | |
| 研修名: 言語技術研修 | 連携企業等: つくば言語技術教育研究所 |
| 期間: 2023年8月21日 | 対象: 全職員 |
| 内容 生成AIプロンプトエンジニアに求められる言語技術、ロジカルコミュニケーションの基本3原則を学ぶ | |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等 | |
| 研修名: 講師会(カリキュラム編成・授業研修) | 連携企業等: 教育課程編成委員関連企業 |
| 期間: 2023年4月1日 | 対象: グローバルIT学科職員 |
| 内容 教育課程編成委員会の結果共有と2023年度の体制と方針 | |
| 研修名: 講師会(カリキュラム編成・授業研修) | 連携企業等: 教育課程編成委員関連企業 |
| 期間: 2023年8月25日 | 対象: グローバルIT学科職員 |
| 内容 教育課程編成委員会の結果共有と内定に向けた到達目標設定 | |
| (3) 研修等の計画 | |
| ① 専攻分野における実務に関する研修等 | |
| 研修名: 画像生成AIの基礎知識とMidjourneyの活用方法 | 連携企業等: AIアートスクールVROOM |
| 期間: 2024年3月19日(火)13時~16時 | 対象: グローバルIT学科職員 |
| 内容 生成AIの登場により世の中の仕事はどう変化するか? 画像・動画ソフトのこれからについてMidjourney(画像AIソフト)を使い、プロンプトの使い方によって動画・画像がどのように変わるかを体験 | |
| ② 指導力の修得・向上のための研修等 | |
| 研修名: 講師会(カリキュラム編成・授業研修) | 連携企業等: 教育課程編成委員関連企業 |
| 期間: 2024年3月30日 | 対象: グローバルIT学科職員 |
| 内容 教育課程編成委員会の結果共有と2024年度の体制と方針・学生コンピテンシーの検討 | |
| 研修名: 講師会(カリキュラム編成・授業研修) | 連携企業等: 教育課程編成委員関連企業 |
| 期間: 2024年9月27日 | 対象: グローバルIT学科職員 |
| 内容 教育課程編成委員会の結果共有と学生コンピテンシーの活用、学生がイメージできる表現での到達目標設定 | |

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

組織的、継続的な教育活動の改善と教育内容の特色づくりを目的として、関係企業の職員(情報処理・オフィスシステム開発部門)と教職員で構成した学校関係者評価委員会を設置する。組織のうえで校長直轄とする。

委員会を毎年度開催し学校自己評価をまとめホームページにて公開する。

評価内藤について真摯に受け止め、改善されるべきところ、また新たな取り組みを要することについて速やかに対応する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|-------------|
| (1) 教育理念・目標 | 教育理念・目標 |
| (2) 学校運営 | 学校運営 |
| (3) 教育活動 | 教育活動 |
| (4) 学修成果 | 学習成果 |
| (5) 学生支援 | 学生支援 |
| (6) 教育環境 | 教育環境 |
| (7) 学生の受入れ募集 | 学生の受入れ募集 |
| (8) 財務 | 財務 |
| (9) 法令等の遵守 | 法令等の遵守 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | 社会貢献・地域貢献 |
| (11) 国際交流 | 国際交流 |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

既存カリキュラムについて意見を聴取し、次年度の教育活動その他学校運営の改善に活用している。具体的には教室の機材の更新やインターネット環境を充実させたいという意見をふまえ、コロナ禍におけるオンライン授業のため、Wifi環境整備やウェブカメラ、マイクなどの教室設備を充実させる事とした。また、オンラインツールのGoogleクラスルーム等の利用のため、職員に情報提供および研修を行うとともに事務フローも改定した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-----------------|----------------------------------|------------------------|-------------------------|
| 田中 祥宏 | NPO法人SKC企業振興連盟協議会 船場経済倶楽部 理事長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 業界団体 委員 |
| 船越 隆之 | 株式会社リテラル 代表取締役 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 企業等役員 |
| 石井 日登美 | ミント大阪 部長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 企業等役員 |
| 柴田 貴夫 | 株式会社ダイナスタイル 代表取締役 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 企業等役員 |
| 戸川 朝子 | 南大阪国際語学学校 校長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 学生出身日 本語学校 校長 |
| 新田 悟朗 | 大阪日本語アカデミー 理事長・校長 | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 学生出身日 本語学校 理事長・校長 |
| NGUYEN THACH VU | 株式会社ASIANCONSULTING | 令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://i-seifu.jp/i-seifu/navi/information/>

公表時期: 2024年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

専修学校専門課程全般についての理解を深めるとともに本学の教育活動と学校運営状況を承知いただくための情報提供とする。

これによりより教育内容の連携を深めより一層の協力関係を構築し、実践的な教育活動や学校運営に活かす。

必要かつ有用な情報について客観性を担保し公開する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-------------------|--------------|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 教育方針・沿革 |
| (2)各学科等の教育 | 企業の方々へ |
| (3)教職員 | 教員の紹介 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 企業の方々へ |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 充実したキャンパスライフ |
| (6)学生の生活支援 | 大阪での楽しい生活 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 募集要項 |
| (8)学校の財務 | 法人概要(事業報告) |
| (9)学校評価 | 法人概要(学校自己評価) |
| (10)国際連携の状況 | 日本語科 |
| (11)その他 | - |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: https://i-seifu.jp/i-seifu_navi/information/

公表時期: 2024年9月1日

授業科目等の概要

| (工業専門課程 グローバルIT学科(2年制)) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|----|------|------|------------------------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| | 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| | 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| 1 | ○ | | | ビジネス日本語(日本語総合理解) | 日本就職に必要な日本語レベルN2～N1レベルへ習熟度アップに向けての「聴解力」「読解力」を身に着ける | 1・前 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 2 | ○ | | | ビジネス日本語(JLPT演習Ⅰ) | 日本就職に必要なJLPTN2～N1試験問題について過去問題を繰り返し演習することで試験合格を目指す | 1・前 | 37.5 | 2 | | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 3 | ○ | | | パーソナルデザイン(キャリアデザイン) | 自己の価値価値観を明確にし、将来の進路についてキャリアデザインを具現化する。就職に必要な履歴書の作成をする | 1・前 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 4 | ○ | | | ビジネス日本語(日本語表現技術Ⅰ) | 日本就職に必要とされるN2～N1文法に関して正しいものを選択したり、その語彙を正確にもちいて適当な文作をする力を養う | 1・前 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 5 | ○ | | | 情報処理基礎 | IT業界に就職するために必要とされる知識を身につける。就職の際に必要とされる資格取得「J検3級」に合格するための試験対策を行う | 1・前 | 75 | 4 | ○ | △ | | ○ | | | ○ | |
| 6 | ○ | | | ビジネス日本語(プレゼンテーショントレーニングⅠ) | 就職に必要とされるテーマに従い自分の言葉でまとめる話し方を学んだり、プレゼンテーションツールを使いこなすことができる。 | 1・前 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |
| 7 | ○ | | | office基礎 | 就職に必要とされるビジネスソフトWord/Excelを使いこなすことができる | 1・前 | 37.5 | 2 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 8 | ○ | | | Web基礎 | フロントエンドで必要とされるWEBプログラミング(HTML/CSS)をマスターして簡単なWEBページが作れる | 1・前 | 37.5 | 2 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | |
| 9 | ○ | | | プログラミング基礎 | 「Java」をマスターするために必要とされる関数の基礎を使ってプログラミングをすることができる。 | 1・前 | 75 | 4 | △ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 10 | ○ | | | 情報処理基礎(情報リテラシー(J検3級)) | ITパスポート検定合格にむけて基礎知識(J検3級合格)の向上 | 1・後 | 37.5 | 2 | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| 11 | ○ | | | ビジネス日本語(就職日本語) | 日本で就職するにあたり、必要な知識を得る。または再現・実現できる。 | 1・後 | 37.5 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 12 | ○ | | | 情報処理基礎(情報セキュリティと知的財産権(J検3級)) | J検 情報セキュリティと知的財産権(J検3級)理解と個人情報保護と著作権を理解する | 1・後 | 37.5 | 2 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| 13 | ○ | | | ビジネス日本語(コミュニケーション聴解・語彙) | N2レベルの文章を読むのに必要な語彙を習得する。N2レベルの聴解ができる・ビジネス用語に慣れ、聞き取れる・理解できる | 1・後 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|--|-----------------------------|---|-----|------|---|---|---|--|---|--|---|--|---|--|--|---|
| 14 | ○ | | ビジネス日本語(日本語表現技術Ⅱ) | 日本で就職後必要とされるN1文法を正しく理解し、使うことができる。類似文法都の使い分けができる。 | 1・後 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | | | | |
| 15 | ○ | | パーソナルデザイン(プレゼンテーショントレーニングⅡ) | 課題に従い動画・スライドで商品企画を発表する | 1・後 | 37.5 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | | | | | |
| 16 | ○ | | 就職対策(キャリアデザイン就職活動準備) | 就職活動に向けた意識・意欲の向上 日本で就職するための自己分析・面接シミュレーション | 1・後 | 75 | 4 | ○ | △ | | ○ | | ○ | | ○ | | | |
| 17 | ○ | | プログラム基礎(WEBページ作成) | HTML&CSSの基礎習得 HTML & CSS習得～Webページ制作 | 1・後 | 37.5 | 2 | △ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 18 | ○ | | プログラム基礎(Microsoft Office応用) | Word Excelビジネススキルの応用 Power Point 基礎習得 | 1・後 | 37.5 | 2 | △ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 19 | ○ | | AI/IOT基礎(プログラミングPython) | 基本的なPythonの知識を身に着ける Pythonを使ってゲームを作りプレゼンする | 1・後 | 75 | 4 | △ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 20 | ○ | | 情報処理応用(ITパスポート試験対策) | IT業界に就職するために必要とされる「ITパスポート試験」に合格するための知識を身に着ける | 2・前 | 150 | 8 | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ |
| 21 | ○ | | ビジネス日本語(ビジネスコミュニケーション) | 社会人として必要とされるコミュニケーション能力や日本企業での仕事のルールを身に着ける | 2・前 | 75 | 4 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 22 | ○ | | ビジネス日本語(就職日本語) | IT業界に就職するために必要とされる企業エントリー～面接合格までの技術を身に着ける。 | 2・前 | 75 | 4 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 23 | ○ | | DataBASE基礎(データベース) | データベースについての理解・SQLを使ったリレーショナルデータベースの取り扱い | 2・前 | 75 | 4 | △ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 24 | ○ | | NETWORK基礎(Pythonプログラミング) | Pythonの基礎や使用方法を学ぶ 4科目から2科目以上選択 | 2・前 | 75 | 4 | △ | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 25 | ○ | | プログラム応用(Javaプログラミング) | 開発環境構築・2次元配列の作り方とデータへのアクセスの方法 4科目から2科目以上選択 | 2・前 | 75 | 4 | | | | ○ | | ○ | | | | | ○ |
| 26 | ○ | | パーソナルデザイン(ITキャリアデザイン) | 就職対策 IT業界職種別リサーチ・リサーチに合わせての就職面談対策 | 2・後 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 27 | ○ | | ビジネス日本語(ビジネス文章作成) | ビジネス文章作成に必要なWord/Excelの技術を習得する。 | 2・後 | 37.5 | 2 | △ | ○ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 28 | ○ | | 情報処理応用(ITパスポート試験対策) | ITパスポートをベースとした情報系知識の向上(データベース系) 過去問演習 | 2・後 | 75 | 4 | ○ | △ | | ○ | | | | | | | ○ |
| 29 | ○ | | 就職対策(ビジネスマナー) | 日本社会や企業における常識や習慣について母国や自分の感覚と比較したりクラスメイトと考える活動を通じて理解していく。 | 2・後 | 37.5 | 2 | ○ | | | ○ | | | | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|--------------------------------|---|-----|-------|---|---|----------------|--|---|---|---|-----|
| 30 | ○ | | 就職対策 (時事研究 (企業研究)) | 企業に求められる要件をリサーチして面接に向けての個人ワークと発表・アドバイス実施 | 2・後 | 37.5 | 2 | △ | ○ | | ○ | | ○ | |
| 31 | ○ | | パーソナルデザイン (日本語待遇 表現) | 卒業後のキャリアデベロップトを可視化する個人プロフィールの作成とそれを実現するために必要な習慣理解・ビジネスマナーを身に着ける。 | 2・後 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | |
| 32 | ○ | | ビジネス日本語(N1 文法) | IT企業に就職した際に求められるN1文法に関して、正しいものを選択したり、その語彙を正確に用いて適当な文作をする力を養う。 | 2・後 | 37.5 | 2 | ○ | △ | | ○ | | ○ | |
| 33 | ○ | | プログラム応用 (JavaプログラミングII) | Java基礎+SQL履修済みの学生に対して実装できる作品を制作しプレゼンテーションする。 (要件定義・仕様書作成課程の習得含む) | 2・後 | 75 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ |
| 34 | | ○ | システム開発(シス テム開発 (Python)) | Pythonで自分で作成したいものを考え、それを形にするまでの工程を学ぶ (仕様書作成～制作～発表) 4科目から2科目以上選択 | 2・後 | 75 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ |
| 35 | | ○ | システム開発 (Java) | Javaによるシステム構築 システム構築・設計・実装の経験するとともにプレゼンテーション力の向上を目指す 4科目から2科目以上選択 | 2・後 | 75 | 4 | △ | | | ○ | ○ | | ○ ○ |
| 合計 | | | | | | 35 科目 | | | 1913 単位 (単位時間) | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | | 授業期間等 | |
|------------|----------|-----------------------|----------|-----|
| 卒業要件: | 出席率 試験結果 | 課題解決への取り組み等を評価して認定を行う | 1学年の学期区分 | 2期 |
| 履修方法: | 通学による履修 | | 1学期の授業期間 | 20週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。